

# ひがしの

9月号 東野小学校報 No.6

## 「衣」「食」「住」

校長 青山龍三

夏休みが終わりました。校舎も命が吹き込まれたように生き生きとしてきました。とはいっても、この連日の暑さです。子どもたちの体力が持つかどうか不安は残ります。運動会の練習が毎日入ってきますので、朝出かけるときの子ども様子には十分気をつけてください。

さて、今回は家庭における最も基本的な「衣」「食」「住」についての話です。児童虐待、朝食を食べてこない児童生徒、不登校の増加、非行の低年齢化などの問題が発生するたびに「家庭の教育力」が騒がれ、「教育力の低下」が社会問題になって久しくなります。

このような状況から、平成10年に中央教育審議会から「新しい時代を拓く心を育てるために」の答申が出され、その中で『もう一度家庭教育を見直そう』が示されました。

- 1 家庭のあり方を問い直そう
- 2 悪いことは悪いとしっかりしつけよう
- 3 思いやりのある子どもを育てよう
- 4 子どもの個性を大切に、未来への夢を持たせよう
- 5 家庭で守るべきルールをつくろう
- 6 遊びの重要性を再確認しよう
- 7 異年齢集団で切磋琢磨する機会に積極的に参加させよう

そもそも「家庭教育」とは何でしょう。『家庭』でなければできない教育と考えてよいと思います。人間らしい生活の基本を身につけ習慣化することがその内容といえます。その多くは、衣・食・住に関することですが、その中に含まれる教育的意味を考えてみます。

まず「衣」について。私たちは、寝起きするときに必ず着替えをします。着替えもしないとすると、どこでもゴロ寝ということになって、その生活習慣はだらだらと「だらしない」ものに



なります。このような家庭では「しつけ」はあまり期待できません。あきらめることになります。「躰」という漢字が和製漢字ということから考えても、日本人がいかにしつけ教育や公衆道徳を大切にしていたかが想像できます。また「しつけ」には、田植えという意味があります。田んぼに苗をきちんと「しつけ」る、という意味です。田植えをきちんとしておかねば、秋の収穫はありません。いろいろな場で、けじめのある生活態度を身につけるよう工夫してみてください。

次に「食」。家庭とは、家族と一緒に食事をするところです。「食事」はぜひ楽しくとらせたいものです。子どもにとって追及される時間になると、楽しく食事をとることはできません。消化も悪くなります。できるだけ意識して、食事の時間を楽しく過ごせるよう、演出してみてください。家族の心の結びつきが人への《思いやり》の情を身につけるための基本になっていくものと思います。動物が食べる「えさ」の時間にははいけません。



3番目に「住」。家庭は家族が「住む」ところです。「住」という漢字には「主」がついています。「主」は、灯火が燭台の上でじっと燃える様を描いた象形文字です。駐（とまる）・柱（じつとたつはしら）・注（じつとひと所に水を注ぐ）・山の主・・・などで、住はひと所にじつと住む意味があります。家庭の外の社会（学校・職場・近所づきあいなど）は、いやなこと多く緊張しがちです。でも、家に帰ればほっとして心が安定するものです。いつでも帰ることのできる温かい家庭があるからこそ、毎日外で精一杯がんばることができるというものです。理屈なしで心が休まる温かい場でありたいと思います。

以上、考えてみれば当たり前のことばかりですが、この当たり前の中に人間性を身につける基本があり、それが土台となって、子ども人間らしさの成長が約束されると思います。子どもが人間性豊かな大人として成長するのは、DNAプログラムに従って「育つ」部分と、まわりの大人が「育てる」部分があって完成されるものと思います。

# ひがしの

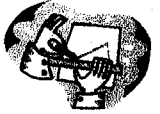
10月号 東野小学校報 No.7

読書の秋、勉強の秋 校長 青山龍三

先日18日の運動会は、暑い中、子ども達の気概に圧倒されました。特に演技種目は、短い期間によくぞあそこまでできるようになったなあ、との思いでした。始めのころの練習を見ていたときには、間に合うかどうか不安ではありましたが、夏休み中に暑い中を先生達が懸命に踊りの練習する姿を知っていましたし、練習に取り組む子ども達の一生懸命な姿を見て、間に合うことを確信しました。結果は当日見ていただいたとおりです。練習の力を十分発揮していましたし、また中には、練習ではできなかったことも気合で成功させるところもありました。運動会での子ども達の姿を見ながら、『子どもは鍛えればどれだけでも力が出せる』、私はその潜在能力の高さにも驚いていました。保護者や地域の皆さんにこのような姿を見ていただくことができ、本当によかったと思いました。でも、お家の方や地域の方に見てもらった子どもたちはもっとうれしく感じたと思います。頑張りを認めることで、子どもたちは次への意欲を持ちます。そのよい機会になったと思います。

さて、季節はもう秋です。涼やかな風がああ夏の猛暑を忘れさせてくれます。グラウンドの横の彼岸花も満開です。学校は『読書の秋、勉強の秋』へとシフトしていきます。学校で勉強することは、社会人として豊かに生きていくための基礎といってよいでしょう。学校では知識をいっぱい身につけてほしいと願っています。もちろん考える力も大切ですが、ただ考えさせるだけでは子どもを伸ばすことにならないのです。いかに深く考えさせるか、よりよく考えさせ



るかが問われます。こう考えたとき、知識を多く持つ方がより深く考えられると思うのです。知識というのは、子どものうちはバラバラでなかなかつながりませんが、大人になればつながってきます。だから子どものうちは難しく感じるのですが、そこを何とか乗り切ってほしいのです。やがて知識の点はつながり、線となり、広がりを見せてきます。その、点と点をつなぐのが読書であり体験であり経験なのです。

自分の例で恐縮ですが、中学校で習う、たぶん世界で一番有名な定理「ピタゴラスの定理」のピタゴラスのことです。彼の名は、中学校3年で始めて知りました。以後彼のことを少し調べて、教団を作ったことや奇数と偶数を最初に分類したと言われていたこと、黄金比を深く研究したことや『親和数』について研究していたことなどを知りました。それからずいぶん時間がたった最近、『博士が愛した数式』の中で出てきた『友愛数』がこの『親和数』ということを知り、ただそれだけで興味を持ち、この小説を読む気になりました。

社会科では、地理と歴史、文化をそれぞれ別に習っていたので、地理は地理で、歴史は歴史で覚えようとしていたのですが、そこに生きる人々の暮らしを考えることで、初めて別々に覚えた知識をつなげることができ、総合的に理解できたことを覚えています。

これからの季節は勉強するには絶好の時期です。覚えたことは時間がたてば忘れるものですが、苦勞して覚えたことは忘れるまでに時間がかかります。だから繰り返し勉強することが大切なのです。また、知識をつなぐ読書にも集中できる時です。大人も子どももテレビやゲームから少し離れて、久しぶりに『ノーテレビ』に取り組んでみてはどうでしょう。



# ひがしの

11月号 東野小学校報 No.8

## 教育活動

校長 青山龍三

先日、出張で高山へ行きました。細かい雨に雪のようなものが混じていました。恵那に帰って来ても寒さは変わらず、このところの急激な気候の変化についていくことは大変です。一方で、子どもたちは元気よく、欠席もほとんどない10月でした。

運動会が終わり、いよいよ後期に入りました。まとめの意味とこれからのことを知っていただく意味で、すでにご存知の方もみえると思いますが、東野小学校が行う教育活動のいくつかを紹介します。

### ・ 幼稚園児への読み聞かせ

小学校の20分休みに隣の東野幼稚園へ行って、園児に読み聞かせをしています。2人ペアで年2回読み聞かせに行きます。今年はどこまでできるかわかりませんが、毎週木曜日に行っています。1学期から6年生が行っており、今も続いています。読み聞かせる本は自分たちで選んでいます。園児も楽しみにしているようですし、小学生にとっても緊張の中、自分が選んだ本を分かるように読むことは自信にもつながりますし、自他を大切にすることを育てるためにもなる活動と考えています。



### ・ 全校研究会

全校職員が授業を見合い、授業でどのような力がついたのか、どの子がどのように伸びたのか、指導する教師が何をねらいとし、その願いは達成できたのか、どうすればもっと深く広く理解できたか、などについて意見交換をし、最後に指導主事あるいはその道の専門に指導を仰ぐものです。教師の指導技術の向上やその教材にどのような価値をみいだしてとりあげたのかなど、

教師の授業力向上のため、教師全員が年に一度授業者になって指導を受ける会です。

### ・ お母さんの読み聞かせ

子どもたちがたいへん楽しみにしています。お母さんが多いのですが、お父さんや地域のボランティアの方にもお願いしています。毎回読んでいただく本を自分で選んでいただき、朝の読書の時間に行っています。1年から6年まで、物語に入り込んで一生懸命聞く姿があります。先日の新聞で、過去1ヶ月のうちに本を読まなかった人の割合が52%に及ぶという記事がありました。東野の児童たちには、読書の楽しさを知り、大人になっても本を読む習慣が続いていることを願っています。



### ・ 田や畑を使った体験活動

校地内の畑の他、地域の方のご好意で田や畑をお借りしています。その田や畑を使わせていただき、田植えからお米の収穫、枝豆やイモ類などの栽培体験をしています。しかし、学校の職員には専門の知識がありません。また、田や畑の世話をする時間もそれほどありません。JAの方や地域の方、あるいはアグリパークの方など、実に多くの方のおかげで学習が成り立っています。深く感謝します。

学校の活動にはすべて目的があります。どんな力を付けるためにその活動を仕組むか。その力を付けるためにこの活動がほんとうに良いのかなど、いろいろ検討を重ねて今の形になっています。でも、さらに検討を重ねる必要があります。子どもは毎年違ってきますし、時代の流れもあります。指導要領の改正もあります。



今後も学校の教育目標『豊かで明るくたくましい東野の子』を目指して、一人ひとりが伸びる活動を仕組んでいきます。